

2007年9月10日発行

第83号



友の会ニュース

発行所
神奈川県東部建設協同組合
〒216-0011川崎市宮前区犬蔵1-4-14
TEL044-976-1151
FAX044-976-0557
フリーダイヤル0120-633-306
定価10円
発行人 白田 武美
編集人 伊藤 実

神奈川県東部建設協同組合の 環境を考えた家づくり

●適切な住環境

私達人間にとってどのような住環境が適しているのでしょうか。

ある大学でマウスを使った実験が行われました。マウスを4種類(木・鉄・コンクリート・無機質)のゲージで飼育し繁殖させ、親マウス・子マウスのさまざまな生態を数字にまとめられています。

それによると木のゲージのマウスは健康に育ちましたが、鉄・コンクリート・無機質のゲージで飼育・繁殖したマウスには異常行動が多く見られ生存率も低かったそうです。また臓器や生殖器の発育にも影響がでていました。

その後、他の大学でも同様な実験が行われ、飼育箱の素材によつてはマウスの異常行動が現れることが報告されています。最近では、木造校舎に関する研究調査などが行われていて、木造校舎で学ぶ学生には不調を訴える子が少ない・インフルエンザ患者が少ないなどの報告もされています。

マウスの実験と人間と一緒に考えてはいけません、木の持つ力に感心せずにはいられません。自然素材を使った家は、心身ともに健康に過ごせるようです。

●日本の森林

世界の森林が減っています。80世紀前に比べ、60%もの森林が地球上から消えてしまっているのです。森を無計画に伐採すれば環境破壊をおこします。また、森林の減少は地球温暖化促進の要因になるとも言われています。

森林が消えていく要因のひとつに途上国の乱伐や違法伐採があげられます。世界に流通している木材の中には、

違法伐採によつて生産されたものも少なからずあり、それは世界の木材製品取引額の10%に上るといいます。木材として製品になって流通されてしまうと違法伐採の材木かどうかは区別が付きません。この違法伐採による木材の流通は木材の国際価格を押し下げ、国際的に憂慮すべき問題になっています。では日本の森林はどうなっているのでしょうか。実に日本の国土の67%は森林です。これはカナダやスウェーデンに並ぶ高い森林率なのです。そして日本の森林の面積は30年前と比較して減少することはなく、人工林は毎年約8千万m³づつ増えています。日本の森林は木材を供給する十分な力をつけているのです。

しかし、木材の国内自給率は20%程度にとどまり、ほとんどが輸入材でまかなわれているのが現状です。国内に十分な資源あるのにわざわざ輸入してまで他国の森林資源を消費する日本に対して批判的な国もあるようです。

国産材の需給が伸びなければ、林業にたずさわる人がいなくなり、人工林は手入れがされず荒れていくでしょう。間伐を行わない人工林は風害・雪害を受けやすく、山は水をためる力を失ってしまいます。山に水が溜まらなければ、河川もまた荒れてしまうでしょう。

●これからの家づくり

木のもつ力は、何かとストレスの多い現代人には『癒し』です。日本の林業は衰退しようとしています。世界的な規模で環境が破壊されています。

これから私たちは、建物を建てるだけでなく環境について学び、考えなければなりません。私たちは、次世代への責任をはたす建築をします。

